

展覧会タイトル

～ 空想と鉛筆 ～

見えている景色
嘘の多い人間社会

嘘で固められた社会

重たい

耐えながら
この世界を横目で見ながら
カフェで絵を描く

現実の中の私
この世界は、一人ではないと実感する

自分以外の誰かとの争い
自分以外は他人、それぞれ考え方が違う
ぶつかるのは当たり前

大きかろうと小さかろうと争いの根本は同じ

生きている社会に絶望はしない
描くことができるから

他者に思うこと
嘘に踊らされるのはもうそろそろ終わりにして
それぞれ自分にとっての当たり前のことを考えたらよい...
私も含めて

私は空想世界を描く

これからのことをおもいながら描く
現実もちよっぴり入る
自分の中の根本を探る旅
線を走らせ
集合意識の中に自分の存在を見つけてみる